

令和5年度 やよい幼稚園・保育園自己点検・評価（総括）

1. 学園理念

学園理念「心をこめて 心をつくして 心を伝える」に基づき、かけがえのない一人ひとりの心に寄り添い、個性を大切に教育を目指した。

2. 教育目標

- ・「心も体も健康で たくましく伸びゆく子ども」を目標に、一人ひとりの子どもの心に寄り添い個性に応じた援助をしながら、生活習慣や社会性を身につけるとともに、子どもの可能性、創造性を伸長する教育を目指した。また、乳幼児期にふさわしい生活が展開されるように、教師との信頼関係にささえられた生活、友達と充分にかかわって展開する生活、さまざまに直接的な体験ができる生活を大切にしたい。

3. 本年度の自己評価

- ・概ね学園理念や園の運営、教育・保育方針を理解し園の教育・保育要領に基づいて教育・保育計画を作成し実践した。
- ・園児一人ひとりの状況や発達に合わせて教育・保育を行うとともに、必要に応じて関係機関と連携を図った。
- ・子どもの育ちの遅れを認めながらも親もいることから、日頃の子どもの成長を伝え、信頼関係を築くことを優先させ、そのうえで課題の共通認識をするようにしてきた。年々個性的な子どもが増えていることから、保護者との関係づくりを大切にしたい。しかし、中には共通認識を図れない保護者もいたことから、今後はより一層丁寧なかかわりをしていきたい。
- ・コロナ感染症も5類に変更され、インフルエンザ並みの扱いになったことから、園行事はほぼコロナ禍以前の状態に戻した。大きな行事には家族総出で来園したり、卒園生が多数来園したりして、大変にぎやかになった。
- ・子どもたちにとっては「お泊り会」は特別な行事で、大人になっても思い出深いようである。しかし、他園では、4年もコロナ感染症の影響で取りやめていたため、「お泊り会」を再開するのが難しく、取りやめるところが多いようである。

本園は、コロナ禍中であっても、保護者にご理解とご協力をいただき、継続開催してきた。この行事は、子どもたちが親からの自立を経験する一つの試金石にもなっていることから、今後も大切にしていきたい。

4. 保護者アンケート結果

- ・本園の教育・保育方針、内容について、全般的に理解を得られている様子が伺える。
- ・コロナ禍で外部の方の入場を制限していた時には、子どもの様子を見たいという保護者の要望が多かった。令和5年5月にはコロナ感染症も5類になったことから、行事を保護者参加型行事に戻した。その結果、保護者からは仕事の関係で、できるだけ来園数を減らして欲しい旨の要望が微増した。
- ・子どもの園生活での様子を伝えることや保護者から園への話しやすさという観点では比較的评价が低かった。

5. 今後の課題

- ・子どもの成長を支えていくためには、子どもはもとより、保護者との信頼関係の構築も大切である。特に個性的な子どもが増えてきていることから、保護者との信頼関係がなければ、適切な教育は提供できない。そのため、今後はより一層、保護者に寄り添うとともに、より丁寧に当事者意識をもって対応して、信頼関係の構築に努めていく。
- ・特に、保護者の迷いや悩み、苦しみに共感しつつも、子どもたちを良い方向に導いていけるように、教育者として、常に誠実に対応していく。
- ・子どもが生活していくためには、安全であることも大切な要素である。
コロナ感染症が縮小したとはいえ、季節外れのインフルエンザが流行することもあり、今後も感染症等には留意していく。また、今後もヒヤリハット事例を教職員間で共通認識をして、できるだけ事故を未然に防いでいく。
- ・教育は単なる専門知識や技術、経験だけで行われるものではない。むしろ、「人間がその人となりを通して行うもの」であるから、教師としての資質も重要な要素となる。
そのため今後も研修会等への参加や自己啓発を促していく。また、専門職だけではなく、自らの人格を磨くことも目標に取り組んでいく。